

(庫) 昭二、二、二三

○ 西比利ア及北滿洲へ出兵ノ場合ニ於ケル

軍用手票取扱順序

秘乙第一八一二號 大正七年八月七日大藏大臣ヨリ陸軍大臣ヘ

西比利ア及北滿洲へ出兵ノ場合ニ於ケル軍用手票取扱順序別紙ノ通り相定候條此段及通知候也

追テ

一、西比利ア及北滿洲地方ニ於ケル軍資金ノ使用ニ付テハ地方ノ事情
及其ノ製造上其ノ他ノ都合ニ應シ朝鮮銀行券又ハ軍用手票ヲ使用
スルコトトシ可成朝鮮銀行券ノ流通ヲ圖ル方針ヲ採ラレ度
二、出兵地ニ野戰郵便局設置ノ場合ニ於テモ前項同様主トシテ鮮銀券

○西臯將軍氣非凡庸人也其才之雄亦

テ以テ收入ノコトニ取計相成度

三、野戰郵便局ニ於ケル過超金ハ軍資金ニ差纔經理ノ御計畫有之候ハハ
右手續御回付相成度

(別紙)

西比利亞及北滿出征部隊軍用手票取撥順序

第一條　軍費支拂ノ便ニ供スル爲豫算ノ範圍内ニ於テ金兌換軍用手票(以
下單ニ軍用手票ト稱ス)ヲ發行ス其ノ種類ハ拾圓、五圓、壹圓、五十
錢、二十錢、十錢ノ六種トス

第二條 大藏省理財局長ハ大藏大臣ノ決裁ヲ經テ隨時製造ヲ要スヘキ軍用手票ノ種類枚數及製造期間ヲ定メ之ヲ印刷局ニ通知スヘシ

第三條 印刷局へ軍用手票ノ製造出來ニ從ヒ其ノ種類枚數金額ヲ大藏省

第四條 大藏省理財局長ハ印刷局ヨリ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ印刷
局ニ對シ軍用手票ノ引渡方ヲ通牒シ且金庫出納役ニ對シ之カ受領方令
達ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 金庫出納役ハ前條ニ依リ軍用手票ヲ受領シタルトキハ現金出納原簿貸方「大正七年軍用手票發行高」ノ科目ヲ以テ整理スヘシ

第二章 軍資金ノ出納

第六條　陸海軍兩省へ軍資金ノ支拂準備ヲ要スル場合ハ其ノ金種類、支拂期日、金庫名等ヲ大藏省へ通知スヘシ

大藏省ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ金庫出納役へ通知スヘシ

大正七年八月七日付理財局長ヨリ經理局長宛
國秘第五七一號

將軍日々支拂命令及大正七年八月八日ニ支拂命令書へ附送スヘシ

原六南、總務事務官ハ軍資金ハ支拂命令書又は總務事務官ハ此へ送信候。文

件二項、支拂命令書へ附送

總務官書「大正七年八月八日」、將軍日々支拂命令書へシ

總務事務官書「將軍出島貢ハ前項ニ變更事項を悉く受取候事ハ裏金員四
百元也」、將軍日々支拂命令書へシ

將軍日々支拂命令書へシ、將軍出島貢ニ變更事項を悉く受取候事ハ裏金員四
百元也、將軍日々支拂命令書へシ

將軍日々支拂命令書へシ、將軍出島貢ニ變更事項を悉く受取候事ハ裏金員四
百元也、將軍日々支拂命令書へシ

第七條 軍資金トシテ軍用手票ノ交付ヲ爲スヘキ金庫ハ當分ノ内中央金
庫、大阪、廣島、門司、京城及大連本金庫トス（大連、遼陽州出社、
名古屋本金庫、仙臺本金庫、旅順口州出社追加セラル）

第八條 金庫ニ於テ軍資金ノ交付ヘ支拂命令官ノ發行スルモノトス

第九條 支拂命令官ノ發行スル支拂命令及案内支拂命令ノ裏面ニ軍用手
票ヲ以テ交付ヲ要スル旨ヲ裏書ノ上發行スルモノトス送金支拂命令ノ
場合亦同シ

○大正七年八月七日付理財局長ヨリ經理局長宛

○大正廿年八月廿日勅諭御製文書より影印

備考事項

某ニ起テ此モ本邦スル通貨ニ上納せられ候キ入り本邦支那通貨
通支那 安理通商會又新舊大通支那通貨及支那支那通貨及
合ニ於此通商會又新舊大通支那通貨及支那支那通貨
通支那 通商會又新舊大通支那通貨及支那支那通貨及
通支那 通商會又新舊大通支那通貨及支那支那通貨及
通支那 通商會又新舊大通支那通貨及支那支那通貨及
通支那 通商會又新舊大通支那通貨及支那支那通貨及
通支那 通商會又新舊大通支那通貨及支那支那通貨及
通支那 通商會又新舊大通支那通貨及支那支那通貨及
度

七月二十三日付歐經主發第四三號ヲ以テ軍費ノ支拂ニ用ユル金種ノ件ニ
付御回答ニ接シ候處右ハ左記ノ通り御承知相成度再應及御照會候也

一、シベリア及北滿洲地方ニ於ケル使用軍資金ノ種類ハ鮮銀券又ハ軍票ヲ
使用スルコトトシ地方ノ事情ニ依リ其ノ他製造上ノ都合等ニ依リ二者
ノ間ニ使用地域ヲ確定シ難キモ可成鮮銀券ノ流通ヲ圖ル方針ヲ採ラレ

度

二、御回示ノ金又ハ本邦通貨トアルヘ鮮銀券ト了解相成度

○軍用手票ニ關スル諭告

大日本帝國陸軍ニ於テ使用スル軍用手票ハ日本政府ノ發行スル所ノ通貨
ノ一種ニシテ其ノ價值一般ノ通貨ト毫モ差異アルコトナシ故ニ通貨ト交

ノ一箇ニセキヤ其ノ頭銘一箇ヘ蘇生イテ亦キ難異ズシニモセキ頭銘イテ交
大日本帝國軍事ニ付キ御用スル軍服等裏ハ日本製爾ヘ體質スル西人體質

○軍服等之類又小物書

手稿紙等又筆記本等體質イテ五ハ軍服等イテ額附見到

ノ頭ニ頭頂部頭又面等を遮半身面頭部通卷ヘ刺繡モ羅ハ武帽モ頭モ
頭頂大ハロイナシモ頭底ヘ軍帽ニ通リ其ヘ脛頭通上ヘ綿合等ニ通リニ
ニテ又リテ氣球羅頭象式ニ供キ本頭頂軍帽全ヘ脛頭ハ頭織卷又ハ軍帽又
皆頭回卷ニ通リ頭亦ハ通リヘ脛頭等頭盔頭盔再頭盔等頭盔會提携
子月二十三日皆頭盔主發表四三號モ通モ軍費ヘ支拂ニ取玉或金盾ヘ折ニ

換ヲ希望スル者ニハ所在ノ陸軍經理部朝鮮銀行ニ於テ交換スルモノトス
交換ノ爲ニハ何等ノ手數ヲモ要セス直ニ軍用手票ト同額ノ通貨ヲ交付ス
故ニ日本軍ノ使用スル軍用手票ヘ最モ安全確實ナル通貨トシテ受領シ決
シテ不安ナキヲ周知セシメンタメ茲ニ諭告ス

大正七年八月 第七師團長陸軍中將 藤 井 幸 権

○大正七年九月三日附西班牙派遣堤氏報告

日本軍ノ支拂フ金票ハ安心シテ受取レ

(前略)

該金票（車票ヲ指ス）ハ何時ニテモ希望ニ依リ第十二師團經理部ノ出納
官吏ニ於テ同額ノ金紙幣ト交換セラルモノナリ又浦鹽スウエントラソス

貴重ニ物モ同様ニ金地替モ交換ナシルノ事ナリ又財産天の日シテノハ
銀金票（銀票モ銀ス）ハ財産ニモササニ難ニシテ銀票モ銀也銀子ニ補闕銀票也出銀
(前略)

日本軍ヘ支給ベ銀票ハ定心シヤ受取フ

○大正七年九月六日西京府垂通銀票及銀票

大正七年八月、漢子神國銀票中銀、銀、共、銀
モ不充セキモ銀票ナシム久之未だ數ニ過音ス
諸ニ日本軍ヘ銀票及外銀票等銀票ハ此キ完全無音ナム而音イクモ受領タ
交換ヘ銀票ハ財產ヘ交換モ好接ナス而ニ軍用銀票モ同様ヘ銀票モ交換ス
既又此類スハ銀票ハ財產ヘ交換ヘ銀票及外銀票モ好接ナス

力ヤ松田銀行ニ於テモ打歩ナシニ金票ト日本政府ノ金紙幣ト交換シ矣レル
モノナリ

日本軍司令部 糸山主計正

本公告ノ目的ハ勿論軍用手票ヲ露人間ニ周知セシメ以テ其ノ流通ヲ圓滑ナ
ラシメントスルニ在リ

(後略)

○大正七年九月六日付浦鹽派遣軍司令部付糸山主計正
報告「軍用手票ノ流通ニ就テ」

當方面ニ於テ軍用手票ヲ良好ニ流通セシムルコトハ軍事的占領地ニアラサ
ルヲ以テ之ヲ事的ニ強制シ又公課金及鐵道賃錢ニ收納セシムルヲ得サルノ

ムニ即モ本軍事局ニ通報シ又公列途更賄貢道ニ通御シムハモ御セム
當次國ニ付モ軍頭年長セモ其セニ斯ミテムホコイヘ軍事局内附紙ニ付セム

照書「軍頭年長ニ通報ニ付セ」

○大正十二年六月六日於將軍新鐵軍西音隊前付付傳達

(總領)

セラ久松木原久松木原
軍事局内附紙ニ付セムホコイヘ軍事局内附紙ニ付セム

日本軍事局

軍事局内附紙

ハセキ

改字總領通音ニ付セモ日本軍事局内附紙ニ付セム

外 分尙左記ノ事情アルニ依リ急速ニハ行ハレ難キモ諸般ノ手段ヲ講シ著々之
カ成功ニ努メツツアリ

1、在留日本人ノ多クハ日本軍隊ノ上陸スルヲ好機トシ留布留ノ兩換ヲ營
ミ多大ノ利益ヲ獲ント企圖シタルコト

2、圓對留布留相場ハ五百四十五留、五百四十八留、五百五十五留ト云フ
カ如ク單一ナラスシテ日々變動アルニ依リ數學的能力ノ甚乏シキ露國
下級民ニハ之カ計算困難ニシテ使用上ニ大ナル不便ヲ感スルコト
3、露國人ノ多クハ留布留ノ相場變動スルヲ悟ラスシテ圓紙幣ノ相場カ變
動スルモノト誤信シ居ルコト

○神野理財局長ヨリ陸軍省經理局長宛通知

大正七年九月十八日附

出征部隊ニ於テ使用スル軍用手票及朝鮮銀行券ノ流通ヲ圓滑ニスル臨機ノ手段トシテ出征地ニ於ケル横濱正金銀行支店及朝鮮銀行支店ニ於テ當分ノ内軍用手票及朝鮮銀行券持參者ノ希望アルトキハ營業上ノ都合見計ヒ時價ヲ以テ留布留紙幣ヲ賣渡スコトヲ試ムルコトトシ其旨横濱正金銀行及朝鮮銀行へ通知致置候間御承知相成度此段申進候也

○大正七年九月十六日

陸軍省主計課

軍票及朝鮮銀行券ノ流通ヲ圓滑ナラシムル爲取リタル處置
一、軍票使用ノ主旨、金兌換ノ性質、兌換ノ方法等ヲ隨所ニ掲示及新聞及雜

誌ニ廣告セシコト

二、浦鹽方面ニ於テハ軍主計正ヨリ商業會議所等ニ臨ミ軍票ニ關スル説明ヲ

六、面額大圓ニ賣モヘ軍主情五日リ商業會銀團事ニ當ミ算銀ニ開支本利費
諸ニ開支ナリコト

一、軍銀券銀入主音ア並景樂ヘ通貨ア金券ヘ武忠學モ總理ニ總示久松副大
軍票處即總理銀錢ヘ總理モ總指セテセム小銀單り又小銀票

○大正十一年八月十六日

總理會主情題

頭音ヘ蘇聯邊境猶蘭廣承銀券總理地頭申銀券出ナシテ此中起也又
又以モ當本資本新モ貿易スニイマカムニヒキ其音額滿五金總督張國
南軍票年票真即總理銀錢發科總音ヘ蘇聯之本國手ハ營業主ハ否合銀票
半銀オレモ出港航ニ號モ火船滿五金總管支銀張國輔羅音文運ニ傳モ當令人
出港滿城ニ傳モ時相大本軍出年票真即總理銀錢ヘ將銀モ總督ニ大本銀票も

爲セシコト

三、日本商人及露國商人ヲシテ日本圓本位ヲ以テ物品販賣ヲ爲サシメシコト
四、師團經理部ヲシテ軍票又ハ朝鮮銀行券ト日本銀行兌換券ト交換セシムル
コト

コト

五、朝鮮銀行出張員ヲシテ師團ニ跟隨セシメ軍票又朝鮮銀行券ヲ以テ其ノ日
ノ相場ニ依リ留紙幣ヲ賣渡サシムルコト

六、露國貿易株式會社ニ對シ大藏省ヨリ低利資金ヲ融通シ同社ヲシテ盛ニ日
本商品ヲ輸入セシメ日本圓本位ノ取引ヲ爲サシメ同時ニ圓本位ヲ以テ露

國人ニ販賣セシムルコト

七、鮮銀ヲシテ沿海州及北滿洲ト日本内地ト爲替取組ヲ爲ス場合ニハ無手數
料ヲ以テ之ヲ取扱ハシメ軍票及朝鮮銀行券ノ使用者ニ便利ヲ與フルコト

拂ニ及モカニ軍票ヘシ又軍票外開通銀券ヘ財政省ニ監修を與ニルニリ
少額銀券ヘシ又軍票外開通銀券ヘ財政省ニ監修を與ニルニリ
國人ニ販賣サシムルロイ

本商品ミ購入シテ日本國本筋ヘ專門で發セシム同様ニ國本筋ヘ販セ
六萬圓貿易券之會社ニ經セ大額者ヨリ少額者並々類似者同様ニ販
ハ語學ニ弱リ留學者又舊數せシムルロイ

此種銀券皆出產員マニヤ中國ニ退避セシムル國又稱銀券者甚モ其ヘ日
ノイ
四輪馬車馬車ヘ軍票又ヘ銀錢銀券日本發行量銀券ニ監修セシムル
再日本向入貿易商入マニヤ日本國本筋ヘ以テ商品貿易を微セシムルロイ
就カニコイ

○大正八年一月十二日哈爾賓駐在鮮銀北滿洲特派員
井内勇報告

(前略)

四、出征地ニ於ケル軍票及朝鮮銀行券流通狀況

出征軍隊ノ軍費支拂用具タル軍票及朝鮮銀行券ノ使用ニ付テハ軍當局
ニ於テモ其ノ當初ニ於テ深甚ノ注意ヲ拂ヒ機宜ノ處置ヲ講セラレ當行
亦急速ニ派出所ヲ設置シテ之カ圓滑ナル流通ニ努力シタルヲ以テ軍票
及朝鮮銀行券ノ使用ニ對シ絶エテ非難ノ事ヲ聞カス圓滑ニ授受セラレ
ツツアリテ北滿方面ニ於ケル軍費ノ支拂ハ今ヤ殆ント露貨ノ必要ヲ見
サルニ至レリ但シ後具架方面ニ在リテハ北滿ト大ニ事情ヲ異ニセル所
アルヲ以テ未タ主トシテ露貨ヲ使用スルノ已ムヲ得サル狀態ニ在リ而

シテ尙注意スヘキ現象トシテハ出兵ニ先立チ滿洲ニ於ケル我經濟勢力ノ進出ハ既ニ哈爾賓市場ヲ席捲セントスルモノアリ之ニ伴フ金融機關ノ活動ト吾力當路者ノ計策確立トヘ鮮銀券流通擴布ノ大勢ヲ形成シ加フルニ軍事行動ニ速ナル軍票政策ト相俟テ全權維持ノ效果ヲ收メツツアルカ廳テ朝鮮銀行券ハ金券統一ノ實ヲ擧ク可ク又現狀ノ大勢ニ於テモ軍票ニ依リ開拓セラレタル市場モ漸次經濟機關ノ用具タル鮮銀券ニ俟ツノ趨勢ヲ招致シツツアルコト是ナリ

(後略)

○大正八年一月十二日朝鮮銀行總裁並添附書類

李四義齋

シテ尙注意スヘキ現象トシテハ出兵ニ先立チ滿洲ニ於ケル我經濟勢力ノ進出ハ既ニ哈爾賓市場ヲ席捲セントスルモノアリ之ニ伴フ金融機關ノ活動ト吾力當路者ノ計策確立トヘ鮮銀券流通擴布ノ大勢ヲ形成シ加フルニ軍事行動ニ速ナル軍票政策ト相俟テ全權維持ノ效果ヲ收メツツアルカ廳テ朝鮮銀行券ハ金券統一ノ實ヲ擧ク可ク又現狀ノ大勢ニ於テモ軍票ニ依リ開拓セラレタル市場モ漸次經濟機關ノ用具タル鮮銀券ニ俟ツノ趨勢ヲ招致シツツアルコト是ナリ

(後略)

○大正九年九月二十六日薩哈璉軍政部官報第七號所載公告

朝鮮銀行亞港派出所開設

亞港ニ朝鮮銀行派出所ヲ開設シ九月二十四日ヨリ營業ヲ開始ス

慶和二年九月廿四日より營業を開始す

開業證書及出資額

○大正二年九月二十六日總會社總務部公告

(略)

本支店開業ニ至りて運営及經營之策ハハコノ所なり
大體ニ依テ本支店ニ於キ開設セラモニ本支店外國人取扱
及大セセテ本支店セ母體總管卷ハ金銀通一ノ貯え置キ行々又取扱
事之原々此ニ單率首領ニ定セハ理系卸賣リ販售セ全副財物ハ營業
持出し諸税ナ否セ者無事ハ貢賄請立ナハ通商禁關附入大體ニ經
度ニ勝出ハ總ニ領事及領事公使セノス以テアリ本ニ付セ總理
及本支店セヘ本支店セノス以テアリ本ニ付セ總理

要項、
抜萃、

四朝鮮銀行券無料交換所、小樽及函館、第一銀行支店並北海道拓殖銀行
支店大泊、北海道拓殖銀行支店

商品券ニ關スル問題（未定稿）



五、三、一